

内閣文庫蔵『沙石集』翻刻

凡例

一、底本には、国立公文書館内閣文庫蔵本（特二二〇一八）を使用した。

一、本文は、底本を忠実に活字化することを最優先し、明らかな誤脱も訂正はしていない。ただ読解の便宜のために、次のような操作を加えた。

1 各説話の頭に通し番号を付した。また、底本の本文構造の理解のため、新日本古典文学全集『沙石集』（市立米沢図書館蔵本）との校異が明らかになるよう、新全集の説話番号を「」で示した。その場合、新全集における巻数を一々記していないので、新全集での巻数を確認したうえで、「」内の番号を参照されたい。「」がなければ、米沢本にはない説話である。

〈例〉19 「三・九」 ↓新全集巻一ノ三ノ九

2 底本には句読点がないが、読解の便のため新たに句読点を付し、会話や引用文には「」を付した。

3 底本における旧字・異体字は、原則として通行の新字体に改めたが、場合により底本の形を残したものもある。

4 底本にある朱字はすべて（ ）を付して示した。

5 経典引用の場合など、漢文的表記の返り点等に明らかな誤りがあるが、原態のままとした。

6 底本の仮名は片仮名であるが、時に平仮名表記がある。その場合も原態のままとした。

7 底本に長文の脱落がある場合、通読の便のため、刊本の当該箇所を注で示したところがある（本文は貞享三年製版本による）。

8 墨滅は■で示した。

9 底本にある朱筆の・と△は、原態のままとした。脱文の意を表すと思われる。

一、なお本翻刻は、「内閣文庫蔵『沙石集』翻刻と研究」として、平成十五年に笠間書院より刊行されたものを元に、補訂した。

1〔序文〕夫僂言軟言皆第一義^ニ帰^シ、治生産業併^ラ実相^ニ不^レ背。然^ニ狂言綺語ノアタナル戯^ヲ縁トシテ、仏乗ノ妙ナル道^ニ入^ラシメ、世間淺近ノ賤^キ事ヲ譬トシテ、勝義ノ深^キ理ヲ知^ラシ(又)ムト思^フ。是故老^シ眠^ラサマシ、徒ナル手スサミ^ニ、見^シ事聞^シ事、思出^ニ随^テ、難波江ノ古^シ惡^シヲモエラバス、藻塩草手^ニマカセテ書^キアツメ侍。カノル老法師ハ無常ノ念々^ニヲカス事ヲ覺^リ、冥途ノ歩々^ニチカツク事ヲ驚^テ、黄泉ノ遠^キ路ノ粮^ツノミ、苦海ノ深^キ流ノ船^ヲヨソフヘキ^ニ、徒ナル^ル与言^ヲ集^メ虚^キ世事ヲ注^ス。時^ニ当^テハ光陰ヲオシマス、後^ニヲヒテハ賢哲ヲハヂズ、由ナキ^ニ似^レトモ、愚ナル人ノ仏法ノ大ナル益^ヲモ不^レ覺^ト、和光ノ深^キ心ヲ不^レ知、賢愚ノ品異ナルヲモ不^レ弁^ヘ、因果ノ理^リ定^レルヲモ不^レ信^セ為^ニ、或^ハ經論ノ明^ハ文^ヲ(引)、或^ハ先賢ノ残セル^ヘ一^オ誠^ヲナス。夫道^ニ入^方便^ニ非^ス。悟^リ開^ル因^縁是^多シ。其ノ大ナル意ヲ知^レハ、諸教義不^レ異^ナ。修スレハ万行旨皆同^キ者^ヲ。是故雜談ノ次^ニ、教門ヲ引、戲論ノ中^ニ解行ヲ示^ス。此ヲ見^ム人、拙^キ語ヲアサムカスシテ法義ヲ悟^リ、ウカレタル事ヲタ^ノサズ(シテ)因果ヲ弁^ヘ、生死ノ郷ヲ出^ル媒^ヲトシ、涅槃ノ京^ニ至^ルシルベトセヨトナリ。是則愚老ノ志耳^ノ。彼金ヲ求^ル者、砂ヲ集^メ是ヲ取^リ、玉ヲ翫^ラ類^ハ石ヲ拾^テ是ヲミガク。仍沙石集ト名^フ。卷^ハ十^ニ滿^テ、事^ハ百^ニアマレリ。于時弘安第二之曆三伏之夏之

- *1 天集之林下貧士無住 大神宮御事
- *2 笠置上人(太) 神宮參詣事
- 出離^ヲ神明^ニ祈^ル事 神明^ハ慈悲^ヲ貴^ヒ給^ス事
- 神明慈悲智恵貴給事 和光利益事^ノ一^ウ
- 神明道心貴事 生類^ヲ神祭不^レ審^ス事
- 和光ノ方便妄念止事 浄土門人神明不可^レ輕^ス事
- 大神宮御事

2〔一・一〕去弘長年中^ニ大神宮^ヘ詣^テ侍^シ、或^ハ神宮^ノ語^リシ^テ、「当社^ニ三宝ノ御名ヲ忌、御殿近^クハ僧^ナ共^ニ詣^テ事^ハ、昔此国未^ダ無^リケル時、大海ノ底^ニ大日ノ印文有^{ケル}ニヨリテ、大神宮御鉢ヲ指入^テサクリ給^ヒケル。其鉢ノ滴^リ露^ノ如^クナリケル時、第六天ノ魔王遙^ニ見^テ、此滴国ト成^テ仏法流布^シ、人倫生死ヲ可^レ出^ル相有^ト、為^レ失^ハン下^リケルヲ、大神宮魔王^ニ相^ヒ給^テ、『我三宝ノ名ヲモユ^ハシ。我身^ニモ近^ツケジ。トク^ク返^リ上^リ給^ヘ』トコシラ^ヘ給^ケレハ、帰^ニケリ。其所約束^ヲタカ^ヘシトテ、僧^ナント^ラ御殿近^クマヒラズ。社壇^ニシテハ經^ヲア^ラハ^ニ不^レ持^ト。三宝ノ名ヲモ^レ一^オタ^ノシクユ^ハシ。仏^ヲハエ^ズクミ、經^ヲ染^紙、僧^ヲハ髮長、堂^ヲハコ^リタキナント云^ヒテ、外^ニハ仏(法)ヲウ^トキ事^ニモ^レ内^ニハ三宝ヲ守^給事^ニテ御座^故、我国ノ仏法偏^ニ大神宮ノ御守護^ニヨ^ルリ。

3〔一・二〕当社^ハ本朝ノ諸神ノ父母^ニ御座^{ナリ}。素盞鳴尊天津罪ヲ犯^シ給^シ事ヲニクマセ給^テ、天ノ巖戸ヲ閉^テ隠^給シカハ、天下常闇^ニ成^ニケリ。八万ノ諸ノ神達カナシミ給^テ、大神宮ヲスカシ為^シ奉^ル出、庭火ヲタキテ神樂ヲシ給^ケレハ、御子ノ神達ノ御遊床敷思食^テ、巖戸ヲ少^ク開^テ御覽^シケル時、世間明^ニシテ、人ノ面見^ヘケレハ、アラ面白^ト云^フ事^ハ其時云始^{タリ}。去^テ太刀雄尊ト申

*1 朱で前行末に続けるべき記号あり。
*2 「笠」を墨滅し、欄外に書き改める。

神^{イタキ}*3 抱奉り、巖戸^示綿引^示、此中へ入セ給へカラストテ、懸^示抱出^示奉リケリ。遂日月ト成リテ天下ヲ照給。日月ノ光ニアタル(モ)、当社ノ恩徳ナリ。

4〔一・三〕都^テ大海ノ底ノ大日如来ノ印文ヨリ事ヲコリテ、内(ニウ)宮外宮^{備部}、大日トコソ習伝^侍。天巖戸ト云、都率天也。タカマノ原トモ云ヘリ。神代ノ事皆由有^{コソ}。真言^ノ意^ニ、都率^テ内証ノ法界宮密巖国トコソ申^{ナレ}。彼内証ノ都^ヲ出^テ日域ニ跡^ヲタレ給故、内宮ノ胎藏ノ大日、四重曼荼羅^ヲカタ取りテ、玉カ干・水カキ・アラカキナント重々也。カツラギモ九有リ。胎藏ノ九尊ニカタトル。外宮ノ金剛界ノ大日、或阿弥陀トモ習侍^ルナリ。然トモ金剛界ノ五智ニカタトルニヤ。月輪^モ五有リ。台金兩部陰陽官^トル時、陰ノ女、陽男^{ナル}故、台^ニ八葉ニカタ取りテ、八人女トテ八人有。金^ノ五智ノ男^ニ官^トトリテ、五人ノ神楽人ト云ルハ此故。

5〔一・四〕御殿^{カキ}萱^{カキ}フキナル事モ、御供、只三杵ツキテ黒モ、人^ノ煩^ヒ国ノツイエヲ思食故也。カツラギモスクニ、タル木^モマカラヌハ、人ノ心ヲ直^ナラシメムト思食故也。去^レ心スナヲニシテ、民ノ煩^ヒ国ノ費^ヲ思^ハン人、(三オ)神慮ニカナウヘキ也。

6〔一・五〕然^ニ当社ノ神官^ハ、自然^ニ梵網ノ十重ヲ持^テルナリ。人^ヲ殺害シヌレハ、永^ク氏^ヲ離^{タル}。波羅夷罪ノ仏子^ノ数^ニ入ヌカ如^シ。人^ヲウチ刃傷ナムトシヌレハ、解官セラル。輕罪^ニ似^リ。

7〔一・六〕又当社^ニ物ヲ忌給事、余社ニ少^シカワリテ侍^リ。産屋ヲハ生氣ト申^ス。五十日忌。又死セルヲハ死氣トテ、同^ク五十日忌給也。其故、死^ハ生ヨリ来^ル。生^ハ是死ノ始也。サレハ生死ヲ共^ニ忌ムヘシトコソ申伝^侍ト云^{ヒテ}、誠^ニ不生不滅ノ毘盧遮那、法身ノ内証^ヲ出^テ愚痴顛倒ノ四生ノ郡類^ヲ助^{ント}跡^ヲ垂^レ給本意、生死ノ流轉^ヲヤメテ、常住ノ仏道^ニ入^ラムト(ナリ)。去^レ生^ヲモ死^ヲモ忌ト云^ハヲロカニ苦^シ也。流轉生死ノ妄業^ヲツクラスシテ、賢^タヘナル仏法^ヲ修行^シ、淨土菩提^ヲ願^ヘト也。誠^ト敷^ク仏道^ヲ信^テ行^ナハムコソ、大神宮ノ御心^ニカナウヘキニ、只今生ノ榮花ヲ思、福德寿(ニウ)命^ヲ祈^リ、執心深^クシテ物ヲ忌、都^テ道念ナカラムハ、神慮^ニ不^レ(可)叶。

8〔一・七〕然^ニ本地垂迹其形コトナレトモ、其意カハラシ。漢朝^ニ、仏法^ヲ弘^メン為^ニ、儒童・迦葉・定光、三人(ノ)菩薩、孔子老子顔回トテ、先^ツ外典^ヲ以^テ人心^ヲヤワラケテ、後^ニ仏法流布セシカハ、人皆是ヲ信^シキ。我朝^ニ、和光ノ神明先^ツ跡^ヲ垂^テ、人^ノアラキ心ヲヤワラケテ、仏法^ヲ信ズル方便トシ給ヘリ。本地ノ深^キ利益ヲ仰^キ、和(光ノ)近^キ方便ヲ信^セ、現生^ニ、息災安穩ノ望^ヲトケ、当生^ニ、無^為常住ノ悟^ヲ開^クヘシ。我国^ニ生^ラ受^ン人、此意^ヲ弁^フヘキラヤ。

笠置解脱房上人大神宮參詣事

9〔二・一〕同神^宮語^シカ、故笠置ノ上人、菩提心祈請^ノ為^ニ八満ノ參籠^ス。示現^ニ、「我身^ニ、カナイ難。大神宮^ハ參^テ申給^ヘ」ト夢ノ中^ニ御告有^テ、(四オ)道ノ様委^ク教^ヘ給ケリ。サテ夢ノ中^ニ參給ケル程^ニ、外宮ノ南山ヲスクニ越^テ參^リ給^ノ山ノ頂^ニ池有^リ。大小蓮花池^ニミチタリ。或^ハ開タル花、ツホメル花、色香満^チ異^ニ(マコトニ)タヘナリ。傍^ニ人有^テ云様、「此蓮花^ハ当社^ノ宮^ノ既^ニ往生^シタルハ開タルナリ。往生スヘキハツホメリ。和光ノ方便ニテ多^ク往生スル也。アノツホメル蓮花ノ大ナルハ經基^{ツネモト}禰宜^{ネキト}申^カ往生スヘキ花ナリ」ト語^{タル}。去^テ御社(ヘ)人參^ラ法施^タテマツルトソ見給ケルニ、

10〔二・二〕夢覺^テ、懸^テヲイウチカケテ、只一人夢^ニマカセテ參給^ニ、少^モ道スカラ夢ニタカハス。但^シ外宮ノ南ノ山ノフモトヲ巡^リテ、大道有^テ山路^ハナシ。是ノミツタカヒタリケル。

*3 「イタキ」の「イ」を墨滅し、墨で改めて書く。

社壇体、夢ニタカハス。去テ若キ俗ノ有ケルヲマネキヨセテ、先ツ夢ニ見シ禰宜ノ事ヲ問給。「是ニ經基ト申禰宜ヤヲハスル」トノ給ニ、「某申コソサトナノリ候ヘ。禰宜ニ成ルヘキ者ニ候ヘ共、当時禰宜ニ侍〈四ウ〉ラス」ト云。サテ、金ヲ三甫^(画)ヲイノ中ヨリトリ出テ、タテマツラル。應彼ノ俗ノ家ニ宿シテ、社頭ノ様ナムトコマカニ問給ナリ。「我今度生死出離セスシテ、人間ニ生レ、当社神官ト生テ和光ノ方便ヲ仰クヘシ」ト誓ヒ給ケルト語ツ侍リキ。彼ノ經基^(三)シタシキ神官カ語シカハ、慥ノ事ニコソ。

出離ヲ神明ニ祈タル事

11〔三・一〕三井寺ノ長吏公願僧正ト申セシハ、願密ノ明匠ニテ、道心有ル人ト聞ケレハ、高野ノ明遍僧都、彼ノ行業ヲボツカク思ハレケルニ、善阿弥陀仏ト云遁世聖リヲカタラヒテ、彼人ノ行儀ヲ見セラル。善仏、僧正、モトヘ参ス。高野ヒカサニハキダカナル黒衣キテ、異ノ様ナリケレトモ、「シカク」ト申入レタリケレハ、高野聖ト聞テナツカシク思ハレケルニヤ、ヒタイツキシタルケキニヨヒ入レテ、高野ノ事、後世ノ物語ナムト通夜セラレケリ。

12〔三・二〕去テ其〈五オ〉朝、淨衣キ幣持テ、一間ナル所帳カケタルニ向テ、所作勢羅札ケレハ、善ノ阿「思ハスノ作法カナ」ト見ケリ。三日カ程カワル事ナシ。去テ事体能々見テ、「朝ノ御所作コソ異様ニ見奉ル。イカナル御勤ニカ」ト申ケレハ、「進テモ申度侍ニ、問給ルコソ本意ナレ。我カ身ニ願密聖教^(三)ヲ学ヒテ、出離ノ要道ヲ思ヒハカルニ、自力ハ弱ク智慧ハ浅シ。勝縁ノ力ヲ離レテ出離ノ望トケカタシ。仍テ都ノ中ノ大小神祇ハ申ニ不レ及、辺地辺国マテモ聞及ニ随テ、日本国中ノ大小ノ諸神ノ御名ヲ書奉リテ、此一間ナル所ニ請置奉リテ、心經三千卷神呪ナムト誦シテ法樂ニ備テ、出離道、偏ニ和光ノ御方便ヲアラク外別ノ作業ナシ。

13〔三・三〕其故ハ、大聖ノ方便、国ニヨリ、機随テ定マレル法ナシ。「聖人ハ心ナシ。万人ノ心ヲ以テ心トス」ト云フ如ク、法身ハ定マレル身ナシ。万物ノ身ヲ以テ^(身トス)。肇論云、「仏ハ非天非人ナル故、能天能人也。然レ、無相法〈五ウ〉身所具ノ十界、皆一智毘盧ノ全体ナリ。天台ノ心ナラハ、性具ノ三千十界依正、皆法身所具ノ万徳ナレハ、性徳ノ十界ヲ修徳ニ顯ハシテ、普現色身ノ力ヲ以テ九界ノ迷情ヲ度ス。又密教ノ心ナラハ、四重曼荼羅ハ法身所具ノ十界ナリ。内証自性会ノ意ニヨリテハカリ知リス。法身地ヨリ十界ノ身ヲ現シテ衆生ヲ利益ス。妙体ノ上ノ妙用ナレハ、水ヲ離ヌ波如シ。

真如ヲ離レタル縁起ナシ。宝蔵論云、「海ノ千波ヲ蕩^{トラガス}千波即海(水)也」。

14〔三・四〕然レ、^(西)四天上代ノ機ニハ、仏菩薩ノ形ヲ現テ是ヲ度ス。我国ハ粟散辺地ナリ。剛施ノ衆生因果ヲシラス。仏法ヲ信ヒス類ニハ、同体無縁ノ慈悲ニヨリテ、等流法身ノ応用ヲタレ、惡鬼邪神ノ形現シテ毒蛇猛獸ノ身ヲシメシ、暴悪ノ族ヲ調伏シテ、仏道入給。サレハ他国有縁ノ身ヲノミ重クシテ、本朝相應ノ形ヲカロムヘカラス。我朝ハ神国トシテ大権跡ヲタレ給。又我等皆カノ孫裔也。氣ヲ同スル因縁不^(六オ)浅カ。此外ノ本尊ヲ尋ネ、還テ感応隔リスヘシ。仍機感相應ノ和光ノ方便ヲ仰テ、出離生死ノ要道ヲ祈申サムニシカシ。金ヲ以テ畜ノ形ヲ造ル。形ヲ見テ金ヲラスレハ勝劣アリ。金ヲ見ニ形ヲラスルノ時ハ異ナル事無シ如シ。法身無相ノ金ヲ以テ四重円壇十界随類ノ形ヲ造ル。形ヲラスレテ体ヲ信ヒテ、イツカ法身ノ利益ニ非サル。智門者高キヲ勝タリトシ、悲門ハ下ルヲタヘナリトス。ヒキ人ノタケクラヘハヒキノヲ勝チトスルカ如シ。大悲ノ利益ハ、等流ノ身コトニ劣機ニチカツキテ、剛施ノ衆生ヲ利スル慈悲勝タリ。去レハ和光同塵^(三)諸仏ノ慈悲ノ極リナムト信シテ、如此行儀異ヤウナレ共年久クシツケ侍リ」トカタラル。

15〔三・五〕春阿、「殊ニタツトキ(御)意樂也」ト随喜シテ、歸テ僧都ニ申ケレハ、「智者ナレハヲロカノ行業アラシト思ツルニ、合ヒテイミシク思ヒハカラハレタリ」トテ、随喜ノ涙ヲナカサレケルトナム古キ遁世上人語リ侍キ。

16〔三・六〕去^レ、智者大師ノ摩訶止觀ヲ説テ、「止觀ト者、高尚ノ者、^{六ウ}高尚スヘキニコソ」。密教ノ深キ意、十界皆無相法身ノ所現ナレハ、炎魔ノ身モ毘盧形モ、真^ニ、四^ニ此^ニ身^ヲ備^ヘ、五智無際智ヲ具セル。其内証ニ入、炎魔鬼畜ノ身改^メスシテ、自性法身ノ心地ヲ開キヌヘシ。去^レ古徳云、「阿鼻ノ依正、全ク処^ニ極生ノ自心ニ、毘盧ノ身土、不^レ踰^ニ凡下ノ一念^ヲ」。又三種ノ即身成仏ト云^ハ、里具ノ成仏ト^ハ者、人々本是仏也。我執^ニ從^テ不^レ顯。諸仏ノ顯徳ノ成仏ヲトゲテ、自在ニ利益ヲ施給^フ。加持ノ成仏ト^ハ者、已成仏ノ三業妙用ヲマナヒテ増上縁トシテ、我心^ニ具足^{スル}乘^テ尽^ス莊嚴恒沙ノ徳用ヲ顯^ハスナリ。信心誠有^テ、我三業、仏ノ三業ニ相^ニ應^{スル}時^ハ、行人即^ニ成^ル也。此故「能令三業同於本尊從此一門得入法界」ト云ヘリ。

17〔三・七〕村上ノ御宇ノ事ニヤ、内裏ニテ五壇ノ法ヲ修セラレケルニ、慈惠僧正^ハ中壇ノ阿闍梨ニテヲハシケルカ、御門^{ヒソカニ}密^ニ御覽^シケルニ、行法中ニ不動^ニ成^テ本尊^ニ少^モ不^レ違^ハ給^ヘ。寛朝僧正者。降三世ノ^{七オ}阿闍梨ニテヲハシケルカ、或時^ハ本尊ト成^リ、或時僧正^ニ成^{ケリ}。御門是^ニ御覽^{シテ}、「不便ノ事^{ナリ}。寛朝^ハ妄念^ノ起^リ」ト仰セラレケル。余ノ僧^ハ只^ニ本^ト如^シ。

18〔三・八〕經^云、「一切衆生者皆如来藏^{ナリ}。普賢菩薩ノ自体遍^{セル}故」ト説テ、我等カ全体法身^{ナリト}雖、差別者迷^ト悟^トノ故也。去^レ不^レ増^不減^ニ經^ニハ、「即此法身流轉五道説名衆生、即此法身修行六度名爲菩薩、即此法身及^テ流^盡深説名爲仏」ト云ヘリ。今垂跡ヲ思^ヒ、即此法身和光同塵名爲神明」ト^{コソ}心得^{ラレテ}侍^レハ、

19〔三・九〕然^ニ、本地垂跡其^ニ体^ニ同^シケレトモ、機^ニ望^テ利益^ニ定^テ勝劣^有ルヘシ。我国ノ利益^ハ垂跡ノ面^ヲ猶^ラ勝^テ御座^スヲヤ。其故^ハ、昔^ハ、從^テ行者、吉野ノ山上ニヲコナハレケルニ、釈迦ノ像現^シ給^ヘル、^ク、「此御形^ニテ、此国ノ衆生^ハ化^シ難^カルヘシ。カクレサセ給^ヘ」ト申^サレケル、次^ニ弥勒ノ御形現^シ給^ヘ。「猶是^モカナハシ」トテ申サレケル時、當時ノ蔵王権現トテ、ヲソロシケナル御形^ヲ現^シ給^ヘケル時、「此コソ我国ノ能化」ト申給ケレハ、^{六ウ}今^ニ跡^ヲ垂^レ給^{ヘリ}。釈尊劫尽ノ時^ハ夜^又ト成^テ、無道心ノ者ヲ取^リ食^ラフテ、^人ヲス^ノメテ道心ヲ令^カレ^テ發^給フ^モ是^ノ心^{ナリ}。行人ノ信心深クシテ、心ヲ一^ニシツ、信敬コト誠アル時、利益^ニ預^{カル}。我国ノ風儀、神明^ハアラタニ賞罰有^ル所^ニ、信敬^ヲアツカシ、仏菩薩^ハ、理^ニ相^ニ應^{シテ}遠^キ益^有ト云ヘトモ、和光ノ方便^{ヨリ}モヲタヤカナル儘^ニ、愚^{ナル}人、信^ヲ立^{ツル}事少^{ナシ}。皆人ノ深^ク信^{セン}為^メハ勝劣^{アラ}シカ、諸仏ノ利益^モ苦^{アル}者^ニ偏^ニ重^シ。サレハ愚痴ノ族^ヲ利益^{スル}方便^{ヨリ}、実^ニ深^キ慈悲ノ色、コマヤカナル善巧ノ形^{ナレ}ハ、青^キ事^ハ、^藍ヨリ出^テ藍^{ヨリ}モ青^カ如^ク、尊^キ事^ハ、^仏ヨリ出^テ仏^{ヨリ}モ尊^キハ、只和光神明ノ^{慈悲}利益^ノ色^{ナル}ヲヤ。古徳ノ寺ヲ建立^シ給^ヘ、必^ス先^ニ*⁴勸^ニ請^神ヲアカムルモ、和光方便^ヲ離^テ仏法立^テ難^キニヤ。彼僧正ノ意樂、カ^ハル趣^キニコソ。心有^{ラム}人、彼ノ跡^ヲ学^ヒ置^ヘシ。

神明慈悲ヲ貴見給事

20〔四・一〕和州ノ三輪ノ上人、常觀房ト申セシハ、慈悲有人^ニテ、密宗^ヲ旨^{トシテ}、結縁^ノ為^ニ普^ク八^オ真言^ヲ人^ニサツケラレケリ。有時、只一人吉野^ハ詔^{ケル}道^ノ辺^リニ、少^ク者^ハ兩三人並^ヒ居^テサメ^クト鳴^キケリ。ナニト鳴^ク哀^ニ覺^テ、「何事^ニ鳴^ツ」ト問^ウニ、十二、三計^{ナル}女子申^{ケル}ハ、「母^ニテ候^ヒツル者、ワロキ病^ヲシテ死^ニ侍^ル。父^ハ遠^クアルキテ候^ハス。人^ハイフセキ事^ニ思^テ見^訪物^モ無^シ。我身^ハ女子也。ヲト^モハイウ^ニカヒナクヲサナク候。但カナシサノ余^リ鳴^{ヨリ}外^ノ事^侍ラ^ズ」トテ、涙^モカキア^ヘス。誠^ニ心^中サコソト哀^ニ覺^ケレハ、「今度^ノ物語^ヲ留^メテ是^ヲ見^助テ、

*4 「勸^ニ請^神」の返り点の誤りを示すために、「勸」と「請」の間に朱で合符を入れる。

イツニテモ又参ナン」ト思テ、便宜近キ野辺^ク持テ捨ッ、陀羅尼ナムト唱テ訪テ、三輪ノ方^ク帰ラムトスレハ、身スクミテハ^クラカレス。「哀^シ、思ヒツル事^ヲ。垂跡ノ前^クギビシキ事ト知ナカラ、カハル業^ヲシツル時^ニ、神罰ニコソ」ト大^ニ驚^テ台思、心ニ^ニ吉野ノ方^ク向テアユメハ、少^キ煩^ヒナカリケリ。其時コソ、「サテハ参^ン」ト思食タルニヤ」ト心得リ。ノヘテ参詣スル^ニ、別^ノ無^シ煩。

21〔四・二〕サテ恐^キアレハ、御殿ヨリハルカナル木ノ下^ニテ念誦^シ、法施奉^ル、折節カムナキ神ツキテ舞ヲ^クハウ^クトリケルカ、走出テ、「アノ御房^ハイカ」トテ来^リケル。「ア⁵ラアサマシ。是^レ迄^キ参^ルマシカリケルニ、御トカメニヤ」ト胸ウチサワキテ、恐思ケル程^ニ、チカツキヨリテ、「イカニ御房、此程待入アレハ遅^クヲワスルソ。我^ハ物ヲハイマヌソ。慈悲コソ尊ケレ」トテ、袖^ヲ引^テ拝殿^ニ具^テヲハシケル。上人余^リニ^ニ忝^ク尊^ク覺ケレハ、墨染ノ袖シヲル^ハ計也。サテ法門ナムト申承テ、泣々下向^シケリ。

22〔四・三〕其^ノ上^カ惠心僧都ノ参詣セラレタリケルニモ、御託宣有^テ、法門ナト仰ラレケレハ、目出^シ難^シ有^テ覺^テ、天台ノ法門不審申^サケルニ、明^ニ答^ヘ給。サテ次第^ニトフ^リ入^テ宗ノ大事ヲ問申^サケル時、此カンナキ柱^ニ立ソイテ、足^ヲヨリテボケ^クト物思^ヒ形^スカタニテ、「余^リニ和光同塵^カ久敷成^テ、ワスレタルソ」ト仰ラレケルコソ、中々哀^シ覺^シ。

23〔四・四〕東大寺ノ石ヒシリ経住^カ、「我^ハ觀音ノ化身也」ト名乗^レトキ、人信^セス儘^ニ、ヲヒタ、敷^ク誓状スルヲ、有人、「觀音ノ化身トナノルヲ人信^セスハ、神通ナムトヲモ現^ヘ九オ^ク見^ヨカシ。誓状^ニ無^ク下^ニヲメタレ」ト云^ヒケレハ、「余^リニ久敷現勢^テ、神通^モハスレテ侍ルモノヲヤ」ト云ケル、思合ラレテヲカシクコソ。末代^ハ時^ニ随^フルマヒニテ、権者^モワキマヘカタカタヘシ。「牛羊ノ眼^ヲ以^テ衆生^ヲ詳量セ^ルサ」レ」ト云ヘリ。誠^ニ知難カルヘシ。

24〔四・五〕(尾張) 国、熱田ノ神官ノ語^リシハ、性連房ト云^フ上人、母ノ骨ヲモチテ高野^ニ参^リケル次^ニ、社頭^ニ宿セシメムトス。人皆^ヲ知^リテ、宿カス者^ノ無^ケレハ、大宮ノ南ノ門ノ脇^ニ参籠シタリケル。夜大官用ノ夢^ニ、大明神ノ御使トテ、神官一人来^テ、「今夜大事ノ客人^ヲエタリ。能^クモチナセ」ト仰^セニテ候」ト云^フ見^テ、夢サメテ、使者^ヲ社壇^ニ参^ラセテ、「通夜^シケル人ヤ有^ル」ト尋^ヌル^ニ、此性連房ノ外人ナシ。使者帰^テ此由^ヲ申^ス。「サテハ」トテ、此僧^ヲ請^スル^ニ、「母ノ骨ヲモチテ候ヘハエ参^ト参^ラ」申ケルヲ、「大明神ノ御下^ニテハ、万事神慮^ヲ仰^キ奉事^ニテ候。今夜カハル示現^ヲ蒙^ヌル上^ハ、私^ニ忌奉^ニ不^レ及」トテ、請^シ様^クモチ、馬鞍用途ナムト沙汰^シ、高野^ニ送^リケリ。無^ク下^ニ近^キ九ウ^ノ事^ナ。

25〔四・六〕又、去承久ノ乱ノ時、当国ノ住人ヲソレテ社頭^ニ集^ム。イカキノ内^ニ世間ノ資財雜具^ヲ用意^シテ、所^モナク集^リミチタル中^ニ、或親^ニヲクレタルモ有、或ウブヤナル者^モ有、神官共制シカネテ、「大明神^ヲヲロシ参^ラセテ、御託宣^ヲ仰^クヘシ」トテ、御神楽マイラセテ、諸人同心^ニ祈請シケルニ、一ツ^ノ程^ニ宜^ニ託^シテ、「我^ハ天ヨリ此国^ニ下タル事^ハ、万人^ヲハクノミ助ナム為也。折^リニコソヨレ、忌^ムマシキソ」ト仰^ラレケレハ、諸人一同^ニ声^ヲ挙^テ随喜渴仰ノ涙^ヲ流^シケリ。其時ノ人今^ニ有^リテ語侍^ヘリ。去^ハ神明ノ御心^ハ、何^モカワラヌニコソ。但心清^ク身^モケカレシカシ。日吉大明神^モ、死人持^テ捨^テタル上人^ヲ、神官^ヲイ出^{セル}ヲ、神官^ニ託^シテメシ返^{サル}事有^リ。神明慈悲ト智恵ト有人^ヲ貴給事

26〔五・一〕春日ノ大明神ノ御託宣^ニハ、明惠房・解脱房^ヲハ、我太郎・次郎ト思也」トコソ仰^シラレケレ。有時、此兩人、春日ノ御社^ニ参詣^シ給^{ケル}ニ、春日(野ノ)鹿ノ中^ニ、膝^ヲ一〇オ^ノ下^テ

*5 「ヲ」を墨滅して、右傍に改めて書く。

フシテ敬奉事有ケリ。明恵房上人、度天ノ事心中ハカリ思立テ給ケルニ、湯浅^{ニテ}、春日ノ(大)明神御託宣^テ留^メ給^ヘリ。彼ノ御託宣、日記侍^ト承^ル。ハル^クト離^レム事ヲナケキ思食由^ノ仰有^ニ、御留^メ有^{ケル}コソ、哀^ニ覺^ト。「若思立候者、天竺^ニ安穩^ニ渡^リテムヤ」ト申給ケレハ、「我々ニ守^ラハ、ナトカ」トコソ仰有^リケレ。其時上人手ヲネ^フラセ給タリケルカ、一期ノ程カウハシカリケルトソ。

27〔五・二〕解脱房上人、笠置^ニ般若台^ト名^テ、閑居ノ地ヲシメテ明神ヲ請^シ給ケレハ、童子ノ形^{ニテ}、上人ノ額^ニ乗^リテワタラ給ケリ。サテ御託宣^有ケリ。我行カンユキテマホラン般若台尺迦ノ御法^リノ有^{ラン}限^リハ、或時、般若台ノ道場ノ虚空^ニ御音計^{シテ}、我^レヲシレ釈迦牟尼仏ノ世ニ出^テ、サヤケキ月ノ夜ヲテラス^ヲハ

常^ニ法門^ナト仰^ラレ申給ケルトコソ。実^ニ在世ノ事ヲ聞^ク心地^{シテ}、忝^モ浦山敷^モ侍^ルカナ。

28〔五・三〕「光有^ル物光有^物ヲ伴^トス」ト云^ヘリ。神^ノ一^〇ウ^ノ明^ノ内^ニ、智恵朗^カシテ、諸法ノ空寂^ヲ達^シ、外^ニ慈悲^タヘニシテ、群生ノ業苦^ヲ哀^給也。智恵^モ慈悲^モ有^ラハ、必^ズ神明伴^ト思食^ヘキニヤ。書^ク、火^ハカワキケル^ニツキ、水^ハウル^ラヘタル^ニ流^ルト。実^ニ執着^ナウシテ妄心^カワカハ、智恵ノ火^モ尽^スヘシ。仁恵^有リテ情^ノウル^ラ有^ラハ、慈悲ノ水^モナカレヌヘシ。

和光利益甚深事

29〔六・一〕南都^ニ小輔僧都^障円^トテ、解脱上人^ノ弟子^{ニテ}、碩学ノ聞有^リシカ、魔道^ニ落^テ、或女人^ニ付^テ、種々ノ事ヲ申^{ケル}中^ニ、「我^カ大明神ノ御方便^ノイミシキ事、イサノカモ値遇^シ奉^ル人ヲハ、如何ナル罪人ナレトモ、他方ノ地獄^ハツカハサスシテ、春日野ノ下^ニ地^ノ(獄ヲ構^テ取入^ツハ、毎日晨朝^ニ、第三ノ御殿ヨリ、地藏菩薩ノ、灑水器^ニ水ヲ入^テ)、散杖^ヲソエテ、水ヲソノキ給^ヘハ、一シタビ^リノ水、罪人ノ口^ニ入^テ、苦患暫助^リテ、少^{コシ}正念^ニ住^スル時、大乘經ノ一^一才^ノ要文、随求陀羅尼ナムトヲ唱^テ聞^カ給^事、日々ヲコタリナシ。此方便^ニヨリテ、漸々^ニウカビ出^テ侍^{ナリ}。学生共^ハ、春日山ノ東^ニ香山^ト云^フ所^{ニテ}、大明神、般若ヲ説^キ給^フヲ聴^聞シテ、論(義)問答ナムト人間^ニ不^レ違^ハ。昔学生^{ナリ}シハ皆学生^{ナリ}。マノアタリ大明神ノ御説法聴聞スルコト、忝^ク侍^レト語^{ケル}。

30〔六・二〕地藏者本社鹿嶋ノ三所ノ中ノ一也。殊^ニ利益目出^ラハスルトソ中^ニアヒ侍^ル。無^仏導師、(本師)付属ノ薩埵^{ナリ}。本地垂跡何^モタノモシクコソ。サレハ和光ノ利益、何^モ同^シ事^ニヤ。日吉ノ大宮ノ後^ニ、山僧ヲク天狗トナリト、和光ノ方便^ニヨリテ出離^ストコソ申伝^タレ。其^モ諸社ノ中^ニ、十禅師靈驗アラタニマシマス。本地蔵薩埵也。トテ(モ)カクテモ、人身ヲウケタル思出、仏法^ニ遇^{ヘル}シルシニハ、一門ノ方便^ニ取^リ付^テ、出離^ヲ心サスヘシ。心地觀經^ニハ、

「一仏一菩薩ヲタノムヲ要法トス」ト説ケリ。去^レハ内^ニ仏性常住ノ理ヲ具^{セル}事ヲ信^シ、外^ニ本地垂跡慈悲方便^ヲ仰^テ、出離生死ノ道^ヲ一^一ウ^ノ心中^ニ深^ク思染^ヘキラヤ。三惡火坑、足下^ニ有[、]六道ノ長夜夢、未^レ覺^{。爪立ノ人身ヲ受、優曇ノ仏法^ニ台^ニ相^ヒ、ナス事ナク、ツトメル事ナクシテ、三途古郷^ニ還^リナハ、千度百度カナシムトモ、何^レ益^カ有^ルヘキ。多生^ニ希^ニウカビ出^テ、億劫^ニ一度^ヒアヘリ。心ヲユルクシテ虚^ク光陰^ヲ送^ル事ナカレ。時人^ヲ不^レ待[、]死兼^テ不^レ弁^{。ユメ}ノツトメヲコナウヘシ。一仏一法^ニ望^テカケ功^ヲツミテ、專^一ニシテ相續スル、諸教ノ法門ノスカタナリ。有縁ノ法ヲ深^ク信^シ行^テ、臨終^ノナラシニスヘシ。}

*6 神明道心ヲ貴給事

31〔七・一〕南都^ニ学生(有)ケリ。学窓^ニヒチラク^タシテ、堂雪ノ功年ツモリテ、碩学ノキコ

*6 欄外に「下巻」とある。

へ有リケリ。或時、春日ノ御社ニ参籠ス。夢ニ大明神御物語有リ。瑜伽・唯識ノ法門ナムト不審申、御返答アリケリ。但シ御面ヲハ拝セス。夢ノ中ニ申ケルニ、「修学ノ道ニタツサワリテ、稽古年久侍リ。唯識法燈ヲカノケテ、明神ノ法樂ニ備タヘニオテマツル。然レハカク面尊体ヲ拝シ、御言ヲ承ハル、是一世ノ事ニ侍ラシト、宿習マテモ悦ヒ思ヒ侍。同ハ御貌ヲ拝シ奉リタラハ、イカハカリ歡喜ノ心モ深ク侍ラム」ト申ケレハ、「誠ニ修学ノ功難レ有リ覺レコソ、カク問答モスレ。但シ道心ノ無キカウタテサニ、面ハ向カヘタウモナキナリ」ト仰有テ見テ、夢サメテ、慚愧ノ心肝ニ徹リテ覺リケリ。實ニ仏法ハ仏ノ宗モ生死ヲ解脱セムガ為メナリ。名利ヲ思フヘカラス。然ルニ南都北嶺ノ学侶ノ風儀、偏ニ名利ヲ先途ニ思ヒテ、菩提外ニスル故ニ、或ハ魔道ニ落チ、或ハ惡趣ニシツムコソ、口惜キ心ナルヘシトテ、聽テ遁世ノ門ニ入テ、一トスチニ出離ノ道ヲハ勤ケル。

32〔七・二〕昔、三井寺、山門ノ為メ焼ハラハレテ、堂塔・僧坊・仏像・經卷・殘ル所ナク、寺僧モ山野ニマシハリ、人モナキ寺成ニケリ。寺僧ノ中ニ一人、新羅明神奉テ通夜シタリケル夢ニ、明神御戸ヲ排シ世ニ御心地ヨケニテ見ヘサセ給ケレハ、夢ノ中ニ不レ思覺テ、「我カ寺ノ仏法守ラシト御（誓）有ニ、カク失セハテヌル事、イカハカリ御ナケキモ深カルラムト思ヒ給ニ、其御氣色ナキ事ヘニウヘ何」ト申ケレハ、「實ニイカテカナケキ覺メサハラム。去トモ此事ニヨリ、真実ノ菩提心ヲ發セル寺僧一人アル事、悦敷ナリ。堂・塔・仏・經者財宝有ラハ造リ又ヘシ。菩提心ヲ發セル人、千万人ノ中ニ難ク有」ト仰ラレケルト見テ、彼ノ僧モ發心シテ侍ケルトコソ申侍リタレ。神明ノ御心、菩提心ヲ發テ、実道ニ入ル悦ヒ給フ事、何ノ神モカワリ不レ給カシ。今生ノ事ヲ祈申サム、神慮ニカナハシトコソ覺ユ。先世ノ間報ニテ、貧福定ニサ有リ。穴ガチニ現世ノ事、神明仏陀ニ申サムハ、且ツハツカシカルヘシ。實ニヲロカニコソ覺覺。同行業ヲ菩提ニムケテ廻向シテ、サラシマテモ、道心ヲ祈申ヘキナリ。

33〔七・三〕東塔北谷ニ貧シキ僧有リケリ。日吉ヘ百日参詣シテ祈リ申ケルニ、「相ト計ヘン」ト仰有ル示現ヲ蒙テ、喜ヒ思ヒ過コソ程ニ、イサハカノ事ニヨリテ、年来ノ房主ヲイ出サレテ、ヨルカタモナカリケル儘ニ、西塔ノ南谷ナル坊ニ同宿シケリ。示現ヲ蒙テ後ハ、物ヲ待ツ心地ニ有リケルニ、指事ナキノミニ非ス、房主ニキヲヒ出サレヌ。面ヘニ三オ目ナク覺テ、又参籠シテ祈請申程ニ、示現ニ蒙リケルハ、「先業ツタナクシテ、如何ニモ福分ナキ故、東塔ノ北谷ハサムキ房ナレハ、西塔ノ南谷ノアタハカナル房ヘヤリタルナリ。是ヲコソ小袖一ノ恩ト思ヒ計ラヒタレ。此外ノ福分我カ力ノ及ヘキニ非ス」トシメシ給ケル上、思切テ祈申サス。先業ノ決定ニ難キハ遁レ、仏神ノ御力モ不レ叶。去レハ「神力モ業力ニ不レ勝」云ヘリ。

34〔七・四〕仏ノ庄世ニ、五百ノ釈種、吠瑠璃太子ニウタレシヲ、釈尊モエタスケ給ヘス。（・）「釈尊ノ御親類ナレハ、如何ナル神通ヲ運ヒテ、助ケ給ヘキニ」ト人不審申セシカハ、其ノ不審ヲ開カシカ為ニ、人ノ釈種ノ御鉢ノ中ニ入テ、天上ニカクシヲカセ給シモ、此ノ釈種ノウタレケル（ロイ、自然ト御7鉢ノ中ニシテ死セリ。彼因縁ヲ説給ヘルハ、「五百ノ釈（種）、昔シ五百人ノ網人トシテ、一ノ大ナル魚ヲ海中ヨリ引キアケテ害シタリシ故也。彼大魚ト云ハ、今ノ瑠璃太子ナリ。我ト其時童子トシテ、草葉ヲ以魚ノ頭ヲ打タリシ故ニ、今日ニ頭イタキ也」ト仰ラレテ、釈尊モ其ノ日、御ヘニ三ウヘ惱アリケリ。況ヤ凡夫ノ位ニ因果ノ理ヲ遁ヤ。縱使百千劫業果報失ト云テ、劫ヲフレトモ因果理ハタカハス。

*7 「鉢」を「鉢」のように書いてしまい、上から「鉢」と書いたがうまくいかず、欄外に改めて「鉢」と書く。

35〔七・五〕利軍支比丘ト云ヒケルハ、羅漢ノ聖者ナリケレ共、余リニ貧シクシテ、乞食トシテ食ラエス。仏ヲシテ塔ノ塵ヲハカセサセ給ケレハ、其日ハ乞食ヲシエケリ。或時アサイヲシテワソクハキケルヲ、舍利仏是ヲハキテケリ。其後乞食スルニ不シテ取、七日カ間不シテ食、湯ヲ食シ水ヲノミテ餓死シテ、仏因縁ヲ祈給ケルニ、「過去ニ母ノ為メ不孝シテ、母カウエテ物ヲ乞ケル時、『砂ヲ食、水ヲメセカシ』ト云テ、七日食ラアタエスシテ、母ヲホシ害シケル業ナリ。聖者トナレ共猶ヲ報ヒ也」トコソ説キ給ヒケレ。カノル因縁ナレハ、貧ク賤キ難ニ相ヒ苦シキ有ル事、皆我昔ノ過カ也。世ヲ人ヲモウラムヘカラス。但我心ヲハチシメテ、今ヨリ後過カナク、罪無キ身トナリテ、浄土菩提ヲ恋ヒ願フヘシ。

36〔七・六〕二条ノ院ノ讚岐、此ノ心ヲヨメルニヤ。 憂キモノナラ昔ノ故ト思ハスハ如何ニ此ノ世ヲウラムハテマシ 凡仏神感応モ少キノ因縁以テコソ、加ユルヘ一四才ノ事ニ侍リ。今生夢ノ世ノ栄花ハ、如何テモ有リナシ。後世菩提ノ事ヲカナハヌ迄モ祈申サム、神慮ニモカナヒヌヘキ。

37〔七・七〕桓舜僧都ト申ケル山僧モ、アマリ貧シテ、日吉ニ參籠シテ祈請シケレトモ、示現モ不レ蒙ラ。山王大師ヲモウラミ奉リテ、離山シテ、稻荷ニ詣テ、申ケルニ、イク程モナクテ、千石ト云札ヒタイニラサセ給ト見テ、悦ヒ思程ニ、又日吉ノ大明神ノ（・）御制止アルコソ難心得侍リト申セハ、御返事ニ、「我ハ小神ニテ（・）思モワカス。彼ハ大神ニテ御座カ、『桓舜者今度生死離ルヘキ者也。若今生ノ栄花有ハ障リトナリ、出離可レ難カル故ニ、云何ニ申セトモ聞モ入ヌ、ナニシタタフソ』ト仰ラレハ、取り返ヘスナリト仰ラレケリ。去テハ深キ御慈悲ニコソトテ、夢ノ中ニモ忝ク覺テ、驚キ臆テ本山ヘ返ヘリテ、一スヂニ彼世菩提ノ勤メノミ不スシテ怠ラ、往生ノシタリトナム申侍レハ、神モ仏モ申セム事ハ、示現無トモ不虛。如何ニモ御計有ルヘキニコソ。但信ヲ致シ功ヲ入テ、冥ノ益ヲ可レ憑ム。行基ノ一四才ノ菩薩ノ御遺誡ニモ、「一世ノ栄花利益ハ多生輪廻ノ基也」トノ給ヘリ。

38〔七・八〕宝地・証積法印、夢ニ西坂本ヨリ十禪師ノ登ラセ給ニ參相ヒヌ。手輿ニメシ、御眷属濟々トシテ御座ス。「何事ヲカ申サマシ」ト思ト、老母ノ貧キ事ヲ思出テ、「彼老母養程ノ事御計候ヘ」ト申ケレハ、御色サシモ実ニ目出度、御心地ヨケニ見ヘサセ給ケルカ、此事ヲ聞カセ給テ、シホクトヤモ衰ロテ、物思スカタニナラセ給フ。「実ヤ、世間ノ事ヲ申ニヨリテ、御心ニカナハヌニコソ」ト思返テ、「老母ノ事ハ、幾程有ルマシキ世ニ候ヘハ、如何テモ候ナム。後世菩提ノ事如何カ仕リ候ヘキ。御助ケ候ヘ」ト申ケレハ、御氣色本ノ如ニナラセ給テ、御心地ヨケニテ打ちエミウナツカセ給ト見テ、道心ノ色モ深ク、終リ目出カリケリ。世間ノ事ヲノミ心ニカケテ、神仏ニ祈申セハ、返々ヲロカナリ。和光御本意ハ、仏道ニ入レハシ為メナリ。世間ノ利益ハ暫ク方便ナルヘシ。此事彼孫弟子ノ（永海法印ノ）物語也。タシカノ事ニコソヘ一五才ノ止觀云、「（和光）同塵ノ結縁ノ初、八相成道ノ論ニ其終リ」。如何ニモ仏意ヲ仰テ、成道ノ化儀ヲ待ヘシ。

生類神明ニ供スル不審事

39〔八・一〕安藝ノ巖嶋ハ、菩提心祈請ノ為ニ、人多ク參詣由シ申侍リ。其故ヲ或人申ヘ、「昔弘法大師參詣之給ヒテ、甚深ノ法味ヲサハケ給ケル時、示現ニ、何事ニモ御所望ノ事承ヘキ由仰ラレケルニ、『我ハ別ノ所望ハ候ハス。末代ニ菩提心祈請スル人ノ候ハムニ、道心ヲタヒ候ヘ』ト申サセ給ケレハ、『承リヌ』ト仰有ケル故ニ、昔ヨリ上人共常ニ參詣スル事ニ侍ル」ト。

40〔八・二〕或上人參籠シテ、社頭ノ様ナムト見ケレハ、海中ノイロクツ、イクラト云事無ク祭リケリ。和光ノ本地ハ、仏菩薩也。慈悲ヲ先トシ人ニ殺生ヲ誡メ可レ給、此様大ニ不審ナリ其レハ、取リハキ此事ヲ先祈請申ケリ。示現ニ蒙リケルハ、「実ニ不審ナルヘシ。是ハ因果ノ理モ不知、徒ニ物命ヲ殺テ浮ヒカタキ物、我ニ供セント思フヘ一五才ノ心ニ祭テ、我ニユツリテ後ハ、罪ニ輕ク、殺サル

生類ハ、報命^{ツキテ}尽^ニ何^ニ無^ク徒^ラニ可^レ捨^テ命^ヲ、我^ニ供^{スル}因縁^ニヨリテ、仏道^ニ入^ル方便^ヲナス。仍我力^ニ、報命^ニ尽^{タル}イロクツヲカリヨセテトラスルナリト示^シ給^{ケル}ハ、不審^ハレニケリ。(・)

信州^ノ諏方・下州^ノ宇都宮^ノ狩^ヲ宗^{トシテ}、鹿鳥^{ナム}トヲタムクルモ此由^ニヤ。

41〔八・三〕大権^ノ方便^ハ、凡夫^{不^レ可^レ知^ル}。真言^ノ調伏^ノ法^モ、世^ノ為^メ人^ノ為^メ成^ル敵^ト。暴悪^ノ物^ヲ、行者[、]慈悲^{利生^ノ意樂^ニ住^{シテ}調伏^{スレハ}、彼^レ必^ズ慈悲^ニ住^シ、止^ス惡心^ヲ、後生^ニ菩提^ヲ悟^ト云^ヘリ。(只)怨敵^ノ心^ヲ以^テ行^{セン}ハ、彼法^ノ本意^ニ非^ズ。定^テ罪障^{ナル}ヘシ。又法^モ成^スヘカラス。去^レ神明^ノ方便^{此意^{ナル}ヘシ}。凡夫^ハ殺生^ヲセスシテ、仏法^ノ教^ノ如^ク戒行^ヲ守^リ、般若^ノ法味^ヲ捧^{ケン}コソ、神慮^ニ可^レ叶^{事^ニ侍}。其故^ハ、漢土^ニ儒道^ニ教始^テヒロメシニ、牛羊等^ヲ以^テ孝養^ニ祭^ル事^{ナル}ヲ、古徳^{云ク}、「仏法^ハタヤスク流布^シ難^シ。仍天竺^ノ菩薩^{他土^ニ生^{レテ}、}へ二六才^ノ先外典^ヲ弘^テ、父母^ノ神識^{有^ル事^ヲ令^メ知^ラ、孝養^ノ志^ヲ教^テ、}仏法^ノ方便^{トス}」ト云^ヘリ。去^レ外典^ノ教^ハ、權教^{トシ}、正^キ仏法^{流布^シル}後^ハ、釈教^ヲ行^{スル}人^ハ彼祭^ヲ改^テ、供^佛施僧^ノイトナミトシ、仏法^ヲ以^テ孝養^ノ儀^ヲナス。是^ヲ以^テ思^ヒモ、我国^ノ仏法^ノ名字^モ不^レ聞^カ、因果^ノ道理^モ不^レ知^ラ時[、]仏^ニ仕^ヘ法^{行^スキ}方便[、]祭^ト云^{事^ヲ教^テ、}漸々^{仏法^ノ方便^{トシ}玉^ヘリ。本地^ノ御心^ヲウカ^ハヒ、}仏法^ノ教^{ヒロ}マ^リナ^ハ、昔^ノ業^ヲ捨^テ法味^ヲ捧^{ケン}コソ、真実^ノ神慮^ニ、人^ノ心^ニ古^シナ^レタル業^ヲ捨^テ難^ク、思^ヒソ^ミヌル心^ヲワス^レ難^キ儘^ニ、准^{シテ}物^ヲ忌^ミ祭^ヲ重^フシテ、法味^ヲ奉^ル事^{少^キハ}、返^タモ^ヲロカ^ニコソ。和光^ノ面^テキ、猶^ラ戒^ヲ守^{コソ}神慮^ニ叶^{事^ナレ}。熊野^詣等^皆戒行^ニ不^レ違^フ。諸^ノ靈社^ニ、古^{ヨリ}稱^{行^ナム}行^ハル^ハ、}本地^ノ御意^ニ叶^ヘキ故^ニ、和光^ノ威^モ目出^ラハス^ヘキ也。

42〔八・四〕漢土^ノ有^ル山^ノフモト^ニ、靈驗^{アラ}タナル社^{有^リケリ}。世^ノ人^{是^ラアカメ}、牛羊魚鳥^{へ二六才^ノナム}トヲ以^テ祭^ル。其^ノ神^但古釜^{ナリ}ケリ。或^時、一人^ノ禪師^{彼^ノ釜^ヲ打^テ、}「神何^ノ所^{ヨリ}来[、]靈何^ノ所^ニ有^ル」ト云^テ、シカシナカラ打^チタタキテケリ。其^時青衣^{キタル}俗^{一人}現^{シテ}、冠^{カタ}フケテ禪師^ヲ礼^{シテ}云^{、「}我^{愛^{シテ}多^ク苦患^ヲ受^ケキ。禪師^ノ無^{生^ヲ説^{為^ニヨリテ}、忽^ニ業^{苦^ヲ離^テ天^ニ生^ス。其^ノ恩^{難^レ報^シ」}ト云^テ去^リヌ。サレハ「殺生^ヲ祭^ルハ、神明^{苦^ヲ受^ケ、清淨^ノ法味^ヲ捧^ケ、其^{深^ノ道理^ヲ説^ハ、樂受[」]ト云^ヘリ。此^アテ、罪^ナキ供物^ヲ捧^ケ、妙^{ナル}法味^ヲ奉^ルヘキナリ。}}}}}

和光^{從^ニ方便^ニ妄念^{止^メタル}事}

43〔九・一〕上総^国高瀧^ト云^{所^ノ地頭}、熊野^へ參詣^シケリ。唯一^人有^リケルムスメヲイツキカシツキテ、且^ハ彼^カ為^ト思^{ケル}ハ、相具^{シテ}詣^テケル。此^ムスメ、ミメ形^{ヨロシ}カリケルヲ、熊野^ノ師^{房^ニ、}ナニカシノ阿闍梨^トカヤ云[、]若^キ僧^{有^リケリ}。京^ノ者^{ナリ}ケリ。此^ムスメヲ見^テ、心^ニカケテ、如何^ニ忍^ビ難^ク覺^レハ、「我[、]淨行^ノ志^{有^テ、}靈^{へ二七才^ノ社^ニシテ}仏法^ヲ行^セムト思^ヒクワタツ。カ^ハル惡縁^ニ相^ヒテ、妄念^ヲサ^ヘ難^キ事^口惜[」]ト思^テ、本尊^ニ權現^ニキ、「此^心ヤメ給^ヘ」ト祈^{請^シケレ}トモ、日^ニ隨^テ、彼^ノ面影^{立^チソ}ヒテ忘^レス。何^事覺^サリケレハ、忍^カネテ、心^ヲヤル方^ヲイウチカケテアクカレ出^テ、上総^国下^タリケリ。

44〔九・二〕鎌倉^{過^テム}ツラト云^{所^ニテ}、便船^ヲ待^チ、「上総^へ越^シ」トテ、濱^ニ打^チ伏^テヤスミケル程^ニ、アユミツカレテ打^チマトロミタル。夢^ニ見^ケレハ、便船^ヲエテ、上総^へ渡^リ、高瀧^へ尋^ヌ行^キヌ。主^シ出^テ相^ヒテ、「如何^ニ下^{給^ヘル}」ト云^{。「}鎌倉^方床^{敷^テ、}修行^ニ罷^{出^テ侍^ルカ、}近^キ程^ト承^テ、御栖^{奉^{ラシ}ト}見^{參^テ侍^ル」}ト云^{。サ}テ様々^ニモテナシケリ。應^テ登^ルヘキ体^ニ申^{ケル}ハ、「暫[、]田舎^ノ様^{見^{給^ヘカシ}」ト留^ケリ。*8・・・其^{志^ヲナ}レハ留^リテ、兎角^{ウカ}カヒヨリテ、忍^ビ}

*8 「本ヨリ」の三字、朱でミセケチ。

くカヨヒケリ。互志不_レ淺。去程_ニ、男(子)一人出キヌ。父母是_ヲ聞テ大_ニイカリ、聽_テ勘當_シケレハ、忍_ビテ、ユカリ有_リケル(一七ウ)人、本_ニカ(ク)レ居_モ、年月_ヲ送_ル程_ニ、「唯_リムスメナレハ、不及_レ力」ト_テユルシツ。此僧_キ、若_キ者_ノ、ミメ形_チナヒラカニ、尋常_ノ者_ナリケル上_ハ、サカ_クシク手_ヲ翫_{ナム}トモナタラカナリケレハ、「今_者子_ニコソシ奉_ラメ」ト_テ、鎌倉_ニ代官_ニ上_ホキ、物_ノ沙汰_{ナム}トモサカ_クシクシケリ。孫_又、形_チ殊_ニ人_々敷見_ヘケレハ、カシツキモテナシケリ。子共_両三人出_キヌ。

45〔九・三〕此_ノ子_{十三}ト云ケル年_ニ、元服_ノ為_メ鎌倉_ノノホル。様_ハく_ノ具足_ニ共用意_シテ、船類_多シタテ、海_ヲ渡_ル程_ニ、風_ハハケシク波_高キ、此子_、船_ハタニ望_テ、アヤマチ_ニ海_ヘヲチ入_ル。「アレ_ク」ト云共、沈_ミ不_レ見。胸_ヒシケテア_ハテサワク、ト思_ヒテ夢_サメテ、十二年_カ間_ノ事_ヲツク_クト思_ヒツ_ノクルニ、只片時_ノ眠_ノ間_也。「縦_本意_トケテ樂_ニサカ_ヘ有_リトモ、唯_暫ノ夢_{ナル}ヘシ。喜_ト有_トモ又悲_ニ有_ルヘシ、由_シ無_」ト思_ヒテ、(ヤカテ)其_ヨリ帰_テ、熊野_ニ行_ヒケリ。和光御方便_ニ、ウツ_ノナル_ヘキ事_ヲカク見_セ給_{ケル}ニヤ。

46〔九・四〕昔、莊周_カ片時_ノ眠_ノ間_ニ、胡_{一八才}蝶_ト成_テ、百年_カ間_、花園_ニ遊_ソフト_シテ、サメテ思_ハ暫_ノ程_也。莊子_ニ云、「莊周_カ夢_ニ胡蝶_ト成_トヤ勢_無、胡蝶_カ夢_ニ莊周_成トヤセム」ト云ヘリ。実_ニハウツ_ノト思_ヒモ夢_キリ。共_ニ夢_ナレハワキカタキ由_ヲ云_ニコソ。

47〔九・五〕凡_三界_ノ輪廻_、四生_ノ轉反_、皆是_無明_ノ眠_ノ中_ノ妄想_ノ夢_也。去_ハ円覚經_ハ、「始_知衆_中、本_来成_仏、生_死涅槃_、猶_如昨_夢」ト説_テ、実_ノ悟_ヲ開_テ見_ハ、無_始生_死、始_覚涅槃_、唯_一念_ノ眠_也。本_覚不_生心_地ニ_{コソ}、眠_モナク夢_モナキ実_ノ心_ナレ。古人_云、「昨日_ノ覚_、今日_ノ夢_、別_{ナル}事_ナシ。ウツ_ノ境_モ事_過又_レハ夢_ノ如_シ。夢_ノ事_モ時_ニ當_テハウツ_ノニ似_リ。誰_ノ智_有ラ_ン人_カ、夢_ト覚_ト殊_{ナリ}ト思_ハン」ト云ヘリ。誠_ニ深_キ理_ニコソ難_ク悟_リ侍_リ。夢幻_ノ世_上ノ事_、心_有ラ_ン人_疑ヘカラス。

48〔九・六〕樂天_云、「榮_様事_過スレハ都_テ成_ル夢_ト。憂喜_心ニ_ワスル便_是禪_{ナリ}」ト。実_ニハ事_過キ_テ空_キノミ_ニ非_ス。時_ニ當_テモ自_性無_キ故_ニ空_也。此_故、生_ニ當_テ不_レハ_一八_ウ生_{ナリ}。色_ニ即_シテ空_無ニ。諸_法ヲ_実ニ_夢ト_知テ、喜_モナク憂_モ無_ク、心_地寂_靜ナラ_ハ、自然_ニ空_門ニ_相応_スヘ_キニヤ。又_云、「禪_ノ功_ハ自_ラ見_ル。無_人覺_{ルト}。合_是然_時、又_不然_{ナリ}」。文_意云、夢_ノ中_ノ事_ハ喜_モ憂_モ心_ヲト_ノム_ヘキ事_無シ。我等_カ(覺_ト)思_ツケタル世_間ノ事_、皆_是夢_也。生_ヲ悦_、死_ヲ憂_、会_ヲ樂_、離_ヲ悲_ル事_、此_夢ヲ_不レ_知心_也。此_等ノ事_ニス_ヘテ心_ウコカス_ハ、即_實門_ニ入_人也。口_ニ云_テ禪_トセス、心_ニ諸_念忘_テ寂_靜ナル、禪_ト云_ヘシト_也。

49〔九・七〕莊子_ニ云、「狗_ハ不_以善_吠為_レ良_、人_不以_善言_不賢」ト云ヘリ。去_ハ法門_ヲ善_云人_モ、心_ニ名_利五_欲ノ思_ヒヲ_スレヌ_ハ、空_門ニ_遠シ。梵網_云、「口_ニ便_説空_ト、行_ハ在_有ノ中_ニ」云ヘリ。末_代ノ真_実ノ智_恵モ道_心モ有_人希_{ナレ}ハ、口_ハ法_説ト_モ心_ニ道_ヲ行_スル_事ナシ。真_レ夢_ノ中_ノ事_ヲ実_トノミ_ニ思_ヒテ、執_心深_ク愛_執アツ_シ。唯識論_云、「未_得真_覺恒_處夢_中、所_以説_為生_死長_夜」ト云ヘリ。慈恩大師、「有_心外_ノ法_ヲ輪_廻生_死。一_九才_ノ覺_知一_心、生_死永_棄」ト尺_シ給_{ヘリ}。生_死ノ長_夜ア_■サル_事、心_外ニ_法ヲ_以テ、妄_境ノ為_ト轉_セラル_ノ故_也。心_外ニ_法ヲ_不レ_見、法_即心_、々_即法_ニシテ、生_死ヲ_可レ_出云_{ヘリ}。心_アラム_人、一_心ノ源_ヲ覺_リテ、云_有ノ眠_ヲサ_マス_ヘシ。

浄土門人輕神明ヲ蒙罰事

50〔一〇・一〕鎮西_ニ浄土宗_ノ学生_ナル俗_有リ_{ケル}。所_領ノ中_ノ神田_ヲ檢_注、余_田ヲ_トル_間、社_僧・神_宮寺_イキト(ホ)リ申_シ、鎌倉_ニテ訴訟_シケレトモ、「余_田ヲ_取事_、地_頭ノ申_所ニ_一分_道理」ト_テ、無_沙汰_ナリ_{ケル}間_、地_頭ニ_猶々_申ス_、大_方ニ_ルサ_ス。ハテハ「呪_詛ヲ_奉ラシ」ト云_ヒケレ共、(イ_サノ_カモ)恐_ル、事_無シ。「如何_ニモ呪_詛セヨ。浄土門_ノ行人_、神_明ナムトナ_ニトカ_可レ_思。接

取ノ光明ヲ蒙ラム行人ヲハ、神明モ争罰給ヘキ」ト(テ)、ヲコツキアサムケリ。去テ神人トモイキトアリ深クシテ、呪詛シケル程ニ、幾ク程無ク悪キ病ヲ付テ物クルハシカリケレハ、母、尼公、大ニ驚キ悲テ、「我孝〈一九ウ〉養トモ思テ、神田ヲ返シ奉テ、ヲコタリ申給ヘ」トナクく申ケレトモ、モチイヌ。病次第ニ重ク、憑ニ無ク見ケレハ、母思兼テ、神明ヲロシ奉テ、病者ノ本ト使ヲヤリテ、「マケテ神田ヲ返進^{ヲシ}セ、ヲコタリ申テ、神田ヲ猶々ソヘテ進^{ヲシ}ラセ給ヘ」ト云ニ、病人物狂ルハシキ氣色ニテ、頸ヲネチテ、「何条神」ト云テ、少モユルサス。

51〔一〇・二〕使ヒ、ヒソカニ「シカく」ト申ケレハ、ミコ(三)神ツキテ、様々ニ託宣シケル程トナレハ、母ヤハラケテ、「病人、『神田カヘシ進ラセム』ト申候。今度ノ命計助ケサセ給」ト申セハ、カンナキウチ咲ヒテ、「頸ヲネチテ『何条神』云物ヲヤ。アラキタナノ心ヤ。我者本地十一面ノ化身也。本地阿弥陀ノ本願ヲタノミ、実ノ心有テ、念仏ヲモ申サハ、如何ニ糸ト敷キ覺ヘ貴トカラシ。是程ニキタナク濁ヨリ、マサナキ心ニテハ、如何テ本願ニ相応シ、清浄ノ淨土ニ生スヘキ」トテハタくトツマハジキシテ、バラくトナキ給ヒケレハ、是ヲ聞ク人皆涙ヲ流シケリ。去^{サテ}ネズタル(二〇オ)頸ナララズシテ、息終ニケリ。最後ノ時、(年)来ノ師匠善知識シテ、念仏勸メケレハ、「コサカシ」トテ、枕ヲ以テ打ケル^ヲ、頭ヲ打^{ハッ}シテ希有ノ命ト見ケル。

52〔一〇・三〕其ノ後、母ノ尼公、又煩ヒテ、白山ノ権現ヲロシ奉リケヲコタリ申ス。「我ハ制シ申シカハ、御トカメ可シトモ有^レ不覺」ト申シ、「誠ニ制セン事ハサル事ナレトモ、子ヲ思フ心切ナル故ニ、心中ニ我ヲ浦見シ事ヤスカラス」トテ、遂ニウセニケリ。

53〔一〇・四〕彼ノ不息、家ヲ継テ有^{ケル}モ、幾ク程無クテ、家ノムネニ驚ノ居タリケルヲ、占ナイケレハ、「神トカメ」ヲ申ケルヲ、其中ニ有^{ケル}陰陽師、「神ノ罰、何事ノ候ヘキ。封^キ候ハム」ト云ケルカ、酒ツキ持ナ(カ)ヲ、シハラレタル如^ニ手ヲウシロニマハシテ、スクミテ死ニケリ。彼陰陽師カ子息今ニ有^リテ、此事カツウハ人ニモ語侍ルトヲ慥ニ聞^クル人申侍^シ。当世事ナレハ、聞及^クル人多ク侍^ラ。彼ノ子孫親類有事ニテ、其ハノカリ侍^トモ、人ノ上ヲ云^{ハム}為^ニ非^ス。只神ノ威不^ル輕^ラ由^テ人ニシ^ラセム為^也。

54〔一〇・五〕凡^ソ淨土(二〇ウ)学、濁世相応ノ要門、凡夫出離ノ直路也。誠ニ々目出キ宗ナル程ニ、余行・余善ヲキラヒ、余ノ仏菩薩・神明迄モ輕シク、諸大乘ノ法門ヲモ失^ナヘル事有。此俗、諸行往生ユルサメ流^レシ^テ、余ノ仏菩薩ヲモ輕シメケル人也。

55〔一〇・六〕凡^ソ淨土宗ノ流^レマチクナリト云ヘトモ、暫一義ニヨセテ申サハ、大方ハ、經文モ尺ノ中ニモ、余行ノ往生スト尺侍^リ。觀經ニハ、「誦誦大乘、解第一義、孝養父母、五戒八戒、世間ノ五常迄モ廻向シテ、往生スヘシ」ト見^ヘタリ。双卷經ニハ、四十八願ノ中ニハ、第十八コソ取分^ク称名念仏ニ侍^リ。第九、「諸(功)徳ヲ修シテ廻向セ、来迎スヘシ」ト誓ヒ、第二十、「諸徳本^ヲ植係念^シテ往生スヘシ」ト云ヘリ。去^ハ念仏、取分^ケ諸行ノ中ニエラヒ勝^テ一願ニ立^テ、正ナリ本^ナリ。余行ハ、惣生因ノ願ニ立^テ、傍也末也。去^ハトテ、往生セストハ如何カ申サム。一流ノ第六、「余行ハ非義願也。乍^レ去^レ往生」ト云ヘリ。善導ノ(二一オ)御釈ニモ、「万行俱廻、皆得往生。一切廻心、向安樂」トモ尺シテ、万行万善、何モ廻向セ、往生スヘシト見^ヘタリ。雜行ノ下ノ尺ニ、「雖可廻向得生、衆名疎雜之行」ト尺給^{ヘリ}。疎^ト親^トハ有^トモ、往生セストハ不見。況ヤ法花ヲ誦シ、真言唱ケ、往生ノ素懷ヲトクル事、經文ト云ヒ伝記ト云、三国ノ先蹤是多シ。ヲサヘテ大乘ノ効能ヲ失^ナヒソシリテ、余教ノ利益ヲナイカシロニスル事、不可然。去^ハ唯仰^テ本願ヲ信シ、念比^ニ念仏ノ功ヲ入^ルトモ、余行余宗ヲ謗リ、余ノ仏菩薩・神明ヲカルシムル事不可有。

56〔一〇・七〕此人ノ臨終ニ其ノ罪見^ヘ侍^リ。前車ノクツカヘリハ後車ノイマシメナルヲヤ。真實ニ

往生ノ志有^ラ人、此事^ヲ可^レ弁也。本願^ニモ、「唯除五逆誹謗正法」ト云ヘリ。恐^ルヘシク。但^シ加様^ニ申侍^ル事、定^メテ又多^ク謗^リ侍^ルヘケレトモ、所存^一義^ヲ申^ノヘント思^ヒ侍^リ。余行往生ユルサヌ流^ハ、弥陀^ヲ讚^ニ似^テ、実^ニハ謗^ルニ成^ルラヤ。〈二一ウ〉其故^ハ、弥陀慈悲^讚大^ニシテ、万行万善^ヲ修^{スル}人^ヲモ迎取、極楽境無^ニ辺^ニテ、余教余宗^ヲ習^{ヘル}輩^ヲモ接取^シ給^{ハム}コソ、余ノ仏^ニモ勝^シ、余ノ浄土^ニモ超^{ヘテ}、「我建超世願」ノ誓^ヒ憑^ヒ敷、廣大無^ニ辺^際ノ国^モ目出^{カル}ヘキ^ニ、余行余教^ハ撰^ビ捨^ラレテ、往生^セ事ナラハ、仏^ハ慈悲少^ク、国^ハサカヒセハクコソ覺^ユレ。

57〔一〇・八〕有^ル乳母、姫君^ヲ養育^{シテ}、餘^リ讚^{トテ}、「我^ラハカ養^ナイ姫君^ハ、御^ニメノウツクシク、御目^ハホソクトシテ、アラウツクシクヲハスルソヤ」ト云^フ、人^ノ、「目^ノホソキハワロキ物^ヲ」ト云^ヘハ、「ヤラ、方々^ノ御目^ハ大^ニヲハスルソ」ト云^{ケル}コソ、思合^セラレ侍^ト。ミタラモ讚^ソコナヒテ侍^ニヤ。

58〔一〇・九〕又余行^ノ往生ユルサヌ流^ノ中^ニモ、義門^マチ^ク也。或人師^ノ義^ニハ、「余行^ノ往生セスト云^ハ、三心^ヲ具^セサル時^ノ事也。三心^ヲ具^スル^ハ、余行^モ皆念^仏ト成^テ往生スヘシ。名号^ヲ唱^トモ、三心^ナクハ往生スヘカラ(ス)」ト云^ヘリ。此義^ナラハ、余行往生無^シ疑。モトヨリ三心^{〈二二オ〉}無^ハ、称名念^仏トテモ往生セス。余行^ト念^仏ト全^クカ^ハル事無^シ。サラハ余行捨^ツヘキニ非^ス。先達^ニ加様^ニ隔^ナシ申、機^ニ勸^メ、宗^ノヒロメ、偏執無^ハ、其悉^罪無^シ。末学在家人^{ナム}トハ、唯詞計^ヲ聞^テ、余行^ヲソシルナルヘキ。

59〔一〇・一〇〕中比、念^仏門^ノ弘通サカリ也ケル時^ハ、「余仏余經、皆徒^ラ物」トテ、或^ハ法花經^ヲ河^ニナカシ、或^ハ地蔵^ノ頭^以テ蓼^ヲスリナムトシケル。或^ハ里^ニハ、隣家^ノ下女^ノ中^ニ語^{リテ}、「トナリノ家^ノ地蔵^ハ、ステ^ニ目^ノモトマテスリツフシタルソヤ」ト云^{ケリ}。アサマシカリケルシワサ^ニコソ。或^ハ浄土宗^ノ僧^モ、地蔵菩薩^ヲ供養^{シケル}時、阿^ミた^ノソハ^ニ立^チ給^ル、便^ナシテ、取^リマ^ワシテ様々^ニソシリケリ。有^ル人^ハ、「地蔵^信物^ハ、地獄^ニ落^ヘシ。地蔵^ハ地獄^ヲハスル故^ニ」ト云^{ヘリ}。サラハみた^観音^モ、衆生^{方便}ニハ、大悲^代受苦^ト誓^セ給^テ、地獄^ニ遊戯^{シテ}コソヲハシマセ。地蔵^ニカ^キルヘシヤ。是皆^仏体^ノ源^ヲシラス、差別^{〈二二ウ〉}執心^深キ故^也。

60〔一〇・一一〕又北国^ニ、千部^ノ(法花)經^ヲ読^{タル}持^經者^有リケリ。或^ハ念^仏(者)進^テ、念^仏門^ニ入^テ、「法花^經読^者ハ必^ス地獄^ニ入^也。アサマシキ罪障^也。雜行^ノ者^トツタナキ事^ト」ト云^{ケル}信^テ、「サラハ一向^ニ念^仏ヲ^モ申^サスシテ、年来^經ヨミケム事、クヤシサヨ口惜^サヨ」トノミ立^居ニ云^程、ロ^ノイトマモ無^ク心^障無^カ、カ^ノル邪見^ノ因縁^ニ、ワロキ病^付テ、物狂^ハシテ、「經^ヨミタルクヤシヤク」トノミロスサミテ、ハテハ我^モ皆^クイ^キリテ、血^ミトロ^ニ成^テ、クルヒ死^ニケリ。ス^ノメタル僧^ノ云^{ケル}ハ、「此人^ハ、法花^經ヨミタル罪^ハ懺悔^{シテ}、其^ノムクイニ舌^唇クヒ切^テ、罪^キエテ、決定^{往生}シツラム」ト云^{ケル}。

61〔一〇・一二〕又中比、都^ニ念^仏門^ヲ流^布シテ、悪人^ノ往生スヘキ由^ヲミタヘテ、戒^ヲ持^テ、經^ヲヨム人^ハ、往生^{スマシ}キ様^ヲ、曼荼羅^ニ囚^ニシテ、貴^トケナル僧^ノ經^ヨミテ居^{タル}ニハ、光明^サハスシテ、殺^生者^ニ、撰^取ノ光明^サシ給^{ヘル}様^ヲカキテ、世間^ニ持^遊ケルコロ、南都^{ヨリ}公家^ハ〈二二オ〉奏^状ヲ奉^ル事^有リケリ。其^状ノ中^詞云、「彼^地獄^繪ヲ見^ル者^ハ、悪^ヲ造^リシ事^ヲクヒ、此^曼荼^羅ヲ^押スル者^ハ、善^モシ事^ヲ悲^ム」ト云^{ケリ}。

62〔一〇・一三〕四句^ヲ以^テ物^ニ判^{スル}時^ハ、善人^ノ悪性^モ有^リ、上人^ハ善人^ニ似^テ、名利^ノ心^アテ、誠^ナキテ、悪人^ノ宿善^アテ、上^ハ悪人^ニ似^テ、底^ニ善心^モ有^リ、道念^モ心^アテ誠^有ラムハ、カ^ノル事^ヲ侍^ルヘキヲ、愚痴^ノ道俗^ハ、偏執^{我慢}ノ心^ヲ以^テ、持^戒修善^ノ人^ヲハ、「悪^人也、雜^行也、往生^{スマシ}キ者^ト」トソシリカロシメ、造^悪不善^ノ者^ヲハ、「善^人也、撰^取ノ光明^ニ照^ラサルヘシ、往生^決足^ト」ト打^カタムケル。邪見^大ナル罪^{ナル}ヘシ。是^ハ聖教^ヲ学^シ、先達^ニ近^付タル人^中ニハマレ

ナリ。辺地ノ在家ノ中ニ、カノル風情マノ二間ニ侍リ。

63〔一〇・一四〕念仏門ノミナラス、天台・真言・禪門ナムトニモ、辺ノ国ノ末流ニハ、多ク邪見ノ義門侍ルニヤ。去ハ如何シテモ智者ニ親近シ、聖教ヲ知識トシテ、邪見ノ林ニ入ヘカラス。是故ニ（心地観）經ニハ、「菩提妙果ノ成シ難ニ非ス、真ノ善知識ニ実ニ〈二三ウ〉値ト難也」ト説。古徳ハ、「出世明師ニ不逢枉テ大乘ノ法薬ヲ服セズ」ト云ヘリ。天台ノ祖師モ、「利根ノ外道ハ、邪相ヲ正相ニ入テ、邪法ヲ以テ正法トシ、鈍根ノ内道ハ、正相ヲ以テ邪相ニ入テ、正法ヲ以テ邪法トス」ト釈給ヘリ。六祖大師モ、「邪人正法ヲ説ケハ、正法邪法ト成リ、正人邪法ヲ説ケハ、邪法正法成ル」ト給ヘリ。（・）近代ハ正見人ニ希レシテ、如来ノ正法ヲ、邪見ノ情ニマカセテ、自他共ニ邪道ニ入ヘキラヤ。牛ハ水ヲ飲テ乳トシ、蛇ハ水ヲ飲テ毒トス。法ハ一味ナレトモ、邪正ハ人ニヨル。能々此義ヲ知テ、邪見ノ過ヲ遁テ、正真ノ道ニ入ヘキナリ。

沙石集 〈二四才〉

64 裏書云、莊周ガ夢下ニ可有。梁ノ武帝ノ時、夢相有リケリ。帝、是ヲ試ミ爲ニ、空ヲ夢ヲ語リ給ク。「朕ガ寢殿ノカハラニ駕トナリテ、飛去ルト見タリ。如何ナル夢ソ」ト。夢相、奏テ云、「今日臣下二人滅亡スヘキ御夢」ト。アハスサル程ニ、近臣二人鬪諍シテ、共ニ滅亡ス。帝驚テ、夢相ヲ召テ、「昨ノ夢ハ、実ト汝ヲ試ミ爲也。然ルニ此事タカハス。如何ニ」ト仰セラレケレハ、「カク仰セ有ラト思食ス、即夢ナリ」ト奏シケリ。是夢ト覺ト同キ心ナリ。法相ニハ、常ノ夢ト思ヘルハ、獨散ノ意識トモ、闇昧ノ意識トモ云ヘリ。我等ガ覺ト思ルハ、明了ノ意識、夢ト云ヘリ。明闇少シ異ルトモ、生死ノ中ノ夢也。唯識論文此意ナルヘシ。

65 裏書云、諸行往生ヲユルサヌ由ヲ宣下ニアルヘシ。彼行往生スルサヌ流ノ一義ニ云、三心ヲ念仏ト心得テ、三心具足シテ余行ヲ修シ、往生スルハ、〈二四ウ〉只念仏ノ往生也。三心無キ余行ハ往生セズ、諸行往生セスト云ヘリ。此事心得ラレス。三心ハ安心也。何ノ行業ニモ渡ルヘシ。去ハ安心（三心）・起行（行念）・作業（修ト）見ヘタリ。稱名モ三心無シ（生）スヘカラス。去テ、稱名ハ念仏トイハレシヤ。三心ヲ念仏ト云故也。惣ハ念仏ト云ハ、諸行ニ渡ルヘシ。但稱名ハ、念仏ノ中肝心也。五念ノ心ノ中ニハ、讚正行ニ當ルト云ヘリ。惠心ノ往生要集ノ正修念仏ノ下ニハ、諸行有也。サレハ実ニハ、諸行モ見那念仏也。坐禪者法身ノ念仏、經呪ハ報身念仏ナルヘシ。引声短声ノ阿弥陀仏ヲ念仏ト云ヘリ。相好ヲ念シ、名好ヲ念スルハ、応身ノ念ナルヘシ。余行ノ往生ヲ念仏往生ト云ハムモ、此意ニテハ苦見非シ。是ヲヤケ法門也。稱名ノ外者往生セスト云義、事ノ外ニヒカメルニヤ。道理文証無シ。

66 地蔵ヲソシリタル下ニ可有裏書 〈二五ウ〉 諸仏ハ御証皆一如平等因也。一ノ法身仏ハ、一善知識ト現給ル中ニモ、地蔵・觀音・弥陀ハ真言習シ、甚深ノ秘事侍リ。タヤスク申難ケレトモ、謗法ノ人世中ニ多クシテ、三宝ヲ互ニソシル事、余リ悲シク侍ルマノ二、住シ給ヘリ。台蔵ノ曼荼羅ハ大日ノ一身也。然ニみたハ大日ノ右肩ノ如シ、觀音ハ右ノ臂手ノ如シ、地蔵ハ右指ノ如シト習ヘリ。又秘經ニハ、「みた六觀音ト反シ、六觀音ハ地蔵ト反ス」ト云ヘリトモ習ヒ侍ルナリ。サテコソ釈尊ノ付屬ヲ受テ、滅後ノ衆生ヲスホメ給ヘル。伝ノ中ニハ、「我淨土ニ安養知足也」トテ、念仏ヲ勸メ給フ。何テニクサテソシリカロシメ奉ラム。アラ不思議ノ人ノ心サマヤ。

67 裏書、法身妙体和光水ハ波ノ如クナル事下、經云、「非離真之立処々々即真也」。立処ト云ハ縁起也。染淨異ナレ共、真如ヨリ發ラスト云事無シ。清濁ノ波異ナレ共、一水ノ〈二五ウ〉動相也。

68 智門ハ高シ悲門ハ下シ和光利益下

自証ノ行ハ、修因至果ト云テ、浅ヨリ深ニ至リ、有為ヲステ、無為ヲ欣、有相ヲラスレ、無相ヲ証ス。

是智門修行ノ形也。諸仏利他ノ方便ハ、從本垂跡ト云テ、本地ヨリ外用ヲ施ス故、無相ヨリ有相ヲ示シ、無身ヨリ他身ヲ現ス。種々形ヲ以テ、イヤシキ族ヲミチヒク慈悲ノカタチ也。止觀第六云、「和光同塵結縁之初、八相成道以論其終」一。和光ノ本ハ、長者ノ窮子ニ近付カ為、瓔珞細軟ノ衣ヲヌキテ、麤弊垢膩ノ衣ヲキシカトモ、長者ノ身カワル事ナキカ如シ。釈尊ノ実報寂光ノ御栖ヲ出テ、応身ヨリモイヤシキ惡鬼邪神等身ヲ示給。猶々慈悲ノイタリ下テ、人ニ近キ御心ナルヘシ。毛ヲハキ鱗ヲキニ六オ給ト、唯長者如ク、法身ノ仏也。形ヲ見テヲロカニ思フヘカラス。三業ノ妙用ヲ学シテ、本尊一門ニ入事ノ本文、大日經疏云、「能令三業ヲ同於本尊一、從此一門ニ得入法界、即是普人平等法界門也」云々。

69 春日御殿ノ四所ノ中、第三本地地藏、本社鹿嶋ヲハシマス事趣、鹿嶋ノ御社中ニ、奥御前トテ、不開ノ御殿ヨリ、二三町ハカリ東ノ山ノ中ニ御座ス。彼ノ御殿ニテハ、念須ナムトモ音ヲタテセス、寂靜トシテ、參詣ノ人ツ、シミ恐レ、其所ヲ不知。故右大弁ノ入道光俊、其上ニ參詣之給テ、奥御前ノ御社ノ辺ニテ、物ヲタツネ給事三日、尋ネカネテ、古老ノ神官ヲ召テ、「是ニ平ナル石ノ円ナルカニ尺計リナルカ有ル」ト問給。「石候」トテ、御殿ノ後ノ竹ノ中ヨリ、土ニウツマレタルヲホリ出シテケリ。是ヲ見給テ、ハラクトニ六ウ打ナキテ、

タツネカ今日ヲ見ツルカナチハヤフル深山ノ奥ノ石ノミマシヲ

サテ語リ給ケルハ、「是ハ大明神天ヨリアマクタリ給テ、時々座禪セサセ給石也。万葉集ノミマシト云是也」ト有リケレハ、人々、サル事ト知リテケリ。家人ソイニシク知リ給タリケル。日記ニ方ニテ少シタカヒタルト有リケル。人トソノリテハシ侍ケルニヤ。

70 莊周夢事趣高瀧事

法相ノ法門ニ、百法ヲ立ツ中ニ、時ハ識分位ノ唯識ト云ヘリ。仮立法ニテ、本ヨリ定ル時ナシ。只心ニ一日ト思ヘ一日、一年ト思ヘ一年也。識ノ上ニ仮立スル也。去ハ、三祇成仏ト云モ、夢ニ三祇ト思ヘル也。実ニ一刹那也ト談ス。彼宗ノ本論、攝大乘論云處、「夢ニ謂トモニ經ニ年、寢レハニ七オ」即須與項也。故ニ時ハ雖無量摂ニ在ス一刹那ニ。定百法ト云ハ、五法事理トシテ五中ニ理事四也。識自相唯識^{八識}、識相応々々^{心所}、識所變々々^色、識分位々々^處、識実相性ハ々々、六無為々々ハ理、余ノ四事也。唯識論云、「未得真覺恒處夢中ニ、故仏説為生死長夜、由レ此未了々、五境唯識」ト云々。

71 念仏法門義下終

或一流ニハ、余行ハ非本願ト云テモ、往生ハスト云ヘル。或一流、余行本願ト云。往生タニセムヲヒテハ、非願ト云名、如何テモ有リナム。大方ハ本願法タニ有ラム上ハ、傍正惣別ニ己レ。非本願ト云ヘルモ、スコシキ不審也。

沙石集作者尾張国笠寺住僧一円聖ニ七ウ